

## 嬉野医療センターを受診された患者さまへ

### 研究情報公開について

通常、臨床研究を実施する際には、文章もしくは口頭で説明・同意を行い実施します。臨床研究のうち、患者さまへの侵襲や介入もなく診療情報等の情報のみを用いた研究については、国が定めた指針に基づき「対象となる患者さまの一人ずつから直接同意を得る必要はありません」が、研究の目的を含めて、研究の実施についての情報を公開し、さらに拒否の機会を保障することが必要です。

当院では下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象に該当する可能性がある方で、診療情報等を研究目的に利用、または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。

|                    |   |
|--------------------|---|
| 研究課題名              | (第75回 日本消化器外科学会 総会)<br>「当院における残胃癌に対する臨床病理学的検討」  |
| 研究責任者(所属名)         | 黨 和夫 (消化器外科 医長)   |
| 本研究の目的             | 残胃癌は初回手術の良悪性や再建法により発生機序や期間に違いがあり、近年は腹腔鏡での手術も報告されている。低侵襲手術が付録行われるようになったことから、今後、残胃癌は増加するものと考えられる。今回、当院の残胃癌手術症例に関する臨床病理学的検討を行い、その特徴を明らかとすることを目的とし、さらに手術手技に関しても検討を行った。<br>これにより、残胃癌手術症例に対する周術期管理の質の向上が期待できると考えられます。         |
| 調査データの該当期間         | 2004年1月から2019年11月まで   |
| 研究の方法<br>(使用する試料等) | 2004年1月から2019年11月の約16年間に当科で施行した胃癌切除症例652例のうち、残胃癌は20例で(3.1%)、非切除であった4例を除く16例を対象としました。周術期の各種パラメータに関して、初回手術時の疾患が良悪性の2群に分けた場合と、初回手術時の再建法を2群に分けた場合の各々で比較検討を行った。<br><br>具体的な検討項目としては、初回手術からの介在年数、手術時間、出血量、術後合併症、入院日数、などがあります。 |
| 個人情報の取り扱い          | 利用する情報から、氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除した状態で取り扱われます。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は一切利用しません。   |
| 本研究の資金源<br>(利益相反)  | 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。   |
| お問い合わせ先            | 電話：0954-43-1120 (代表)<br>担当者：管理課長  |
| 備考                 |   |